

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	株式会社エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム花みず木		
所在地	福岡県福岡市博多区西月隈3丁目3-54		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果確定日	令和5年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

会社の基本理念であるAmenity・Care・Service(快適な介護をサービス)を提供して利用者に、家庭的な生活空間で穏やかに過ごしてもらっています。都市高速や高速道路に近いという利点を生かして、外出レクリエーションに力を入れており、毎日のレクリエーションも季節の変化を感じられるように努めています。利用者の誕生日やクリスマス会には、ご家族の方々も参加して頂いて皆で楽しめるようにしています。毎日の体操やお手伝いなどでADLを維持出来るようにしています。同敷地内の二つの施設と連携して利用者同士の交流をはかっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム花みずき」は平成14年11月開設。基本理念のAmenity・Care・Service(快適な介護をサービス)をモットーに、家庭的な生活空間で穏やかに過ごしてもらっている。周辺には公民館・小学校などがある。コロナ禍以前は中学校の体験学習、地域ネットカフェへの参加も行ってた。コロナ禍の中、ネット検索を十分に行い、事業所の車で出来る範囲で外出している。事業所内での行事に力を入れており、事業所で作製した簡易神輿を利用者に担いでもらったり、レクリエーションにも季節の変化を感じられるように努めている。同敷地内に法人経営の二つの施設があり、連携して利用者同士の交流をはかっている。今後も地域福祉の中心となり、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている(参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ACSの基本理念は常時掲示しており、新年度に、その年の新しい基本方針が示され、掲示して常に職員が確認できるようにしている。	基本理念は施設長が作成し、スタッフコーナーに掲示してある。職員には、理念の意味をどこまで理解しているか質問形式で意識づけを行った。新年度にその年の新しい基本方針が示される。常に職員が理念及び基本方針を意識して実践につなげていくようにしている。個人目標に対し半年に1回、自己評価を行い提出する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中でも、毎月町内会の公園掃除には参加しており、回覧板も回覧が再開されている。	毎月、町内会の公園掃除には参加している。公園隣には公民館があり、公民館とのつながりも持っている。回覧板は町内の方が持参してくれる。コロナ禍以前はネットカフェにも参加していた。	事業者で行われていた「餅つき大会」を再開し、運営推進会議のメンバー及び近隣の方に参加してもらおう声かけを行なう。再開できるようになった時は、ぜひ声かけ交流されることを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議は書面会議で直接触れ合える機会は無かったが、会議での資料などで理解はしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面会議となっているが、ご意見や感想は毎回頂いていて、毎日のサービスに活かしている。	コロナ禍の中、書面会議となっている。町内会長・民生委員・包括支援センターなどに議事録は送付している。年間計画があり、事業所の現状・ヒヤリハット・災害訓練・レクリエーション・第三者評価などの情報を知らせている。令和5年2月には開催があり、つみクリニックからの参加があった。議事録は入り口すぐに設けてある掲示板に掲示して、見てもらえるようにしている。意見、要望などをもらい、サービス向上に活かしている。	コロナ以前は家族会もあり家族の参加もあった。今後、家族に議事録送付とともに、運営推進介護への参加の呼びかけをしてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録の報告はしている。生活保護の入所者が居るので随時担当の方と連絡している。	運営推進会議の議事録は送付している。介護保険の申請は送付している。最近では外部評価のことについて尋ねた。必要時には随時連絡を取っており、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束をしない介護が出来る様に取り組んでいる。3か月に1回幹部会議で身体拘束の取り組みについて報告している。日中の施錠はしておらず、施設内は自由に行き来できる。	内部研修は職員が順番に持ち回り、資料を作成する。3か月に1回幹部会議を開き、身体拘束の取り組みについて報告をしている。夜間センサーを使用している利用者があり、家族には同意書をもらっている。離設の際には同敷地内にある二つの施設に協力してもらおう。近隣のコンビニエンスストア・会社などに声かけお願いをしている。スピーチロックについては、気が付いたときに管理者が注意をする。	

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で正しい知識を習得出来るように繰り返し研修している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学んでおり、日常生活自立支援事業や成年後見制度については包括支援センターに外部研修を依頼したいと考えている。	現在制度の利用はいない。研修資料は持ち回りにより職員が作成する。以前は外部研修に行っていた。職員は日常生活自立支援事業・成年後見制度についてそれぞれ理解はできている。パンフレットも用意している。	以前包括支援センターに成年後見制度について研修をしてもらい、質問が多くあった。今後も依頼したいと考えている。直接話を聞く事でより理解が深まると思われる。ぜひ検討されてみたらどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者とそのご家族には理解を得られるように十分な説明をしている。その後も面会時や電話で質問等に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方は面会時に意見や要望を言われる事が多く、職員は記録して、他の職員とも情報を共有している。毎月のお便り(花だより)や電話で報告していて、家族の方が話しやすい状況を作っている。	家族の訪問は、コロナ感染に対する予防を行ってもらい、いつでもできる。電話連絡も19:00以降は前もって連絡してもらい対応している。訪問時・電話などで意見・要望などを聞き取り、職員全員で情報を共有しそれらを運営に反映させている。毎月、写真入りの「花だより」で日常の様子を家族に知らせている。昨年は中洲の川下りの写真が大変喜ばれた。意見箱は設置しているが、投書はない。	意見箱は設置しているが投書がない。「花だより」の中に一筆便などを同封し、意見箱に入れやすくしてみたらどうだろうか。「花だより」は楽しみにしている様子であり、次回の運営推進会議の議題なども知らせてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話やミーティングで職員の意見や提案を聞き、幹部会議で話し合っている。	日常の会話やミーティングで意見・提案を行う機会がある。必要に応じてすぐに対応してもらい、入浴用のいす、調理用具などもすぐに購入してもらった。ミーティング以外にも話を聞いてもらう機会があり、提案、意見を聞いてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の査定を行い施設長との面談を年2回行っている。職員の希望や提案が言える環境を作っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、経験等で区別していない。職員全員がそれぞれの能力や知識を生かして働ける環境を提供している。	年齢は幅広くお互いに助け合い仕事を行っている。休憩時間、場所の確保もできている。シフト及び休みの相談にも乗ってもらう。手先が器用・飾り物の作製のアイディアを出す・自分が楽しく働くことで、利用者みんなの笑顔を見ることが楽しいなどと、生き生きとして勤務している。ケケアマネジャーの勉強をしたいとの希望もあり、それぞれに自己研鑽に励んでいる。資格手当もある。	

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修やミーティングで指導したり必要があれば、就業中でも改善している。倫理・コンプライアンス・法令順守など社会人としてのマナーの研修は繰り返し行っている。	研修やミーティングで指導したり、必要がある時は就業中でも改善している。社会人としてのマナーの研修は繰り返し行っている。研修資料は事業所のマニュアル及び職員が、持ち回りで作成する。人権を尊重することに取り組み、電話・手紙の支援も利用者の希望に沿うように行っている。それぞれの能力合わせ朝の掃除・洗濯物たたみなどの役割を行ってもらう。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実施出来ている。コロナ禍のため、外部研修は出来ていない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他の施設や同業者との取り組みは出来ていない。情報の共有や話し合い、研修等で学習をして、サービスの質を低下しないように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より情報を提供してもらい、日々の会話の中から本人の要望や不安などを見つけ出して、安心できる環境を提供している。信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所時に家族の要望や不安などを伺い、その後も電話や来所時に相談などを共有して信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の歴史を聞いて必要としているサービスを家族や主治医と話し合い対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で掃除や食事の用意など、一緒にできることを探して手伝ってもらって過ごしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会、手紙、電話などで、本人と良い関係を継続できるように支援している。		

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、今までのような面会ではできない事を了承してもらい、解除になるのを待ってもらっている。	家族の訪問は玄関などで5～10分行ってもらった。親戚の訪問があり、コロナ感染予防を確認し、利用者の部屋で15分行ってもらった。個別対応として、家族の訪問を利用者の部屋で30分行ってもらったこともある。今までのような訪問ができないことを了承してもらい、解除になるのを待ってもらっている。麻雀が好きな方は馴染みのメンバーとゲームを楽しんでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや定期的な席替えをして、利用者間のコミュニケーションが活性化するように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍以前は、家族に許可を頂いて新しい施設に面会に行っていた。家族から現在の状況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意見や協力を聞き、本人の希望を聞いて本人の意向に沿うようにしている。	初回は管理者又はケアマネジャーが事業所で行ったり、病院に行くこともある。家族の意見や協力を聞き、本人の希望・思いをくみ取り本人の意向に沿うようにしている。意思疎通が難しい方には表情・仕草などを観察し、思いをくみ取る。事業者独自のアセスメント様式で、担当者が半年に1回アセスメントを行い、職員全員で共有する。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に家族よりこれまでの生活や環境等を伺っている。対応困難な時には、家族に相談して、情報提供等お願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やケアプランなどでそれぞれの状況を把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を尊重して、会議記録や職員の気づきや家族の希望も検討して、介護計画作成をしている。	ケアプランの実施記録が毎月あり①実施日②サービスが適切に行われているか(援助目標の達成度など)③モニタリング(本人・家族の満足度)④総評が書かれ、ケアプランと実施記録は紐づいている。担当者会議では本人、家族から意見・要望を聞き、医師などからも意見をもらい現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議の議事録に医師などからの意見も紹介記録として議事録に残すことで、発展的なプラン作成につながることも期待したい。

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアプランを実践して職員間の情報を共有しながら、介護計画の見直しをしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなサービスを模索して取り入れている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージなどを取り入れている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は24時間体制となっている。家族の希望の受診が出来る様にかかりつけ医と連携している。	提携医の訪問診療は24時間体制となっている。本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医の医療も受けられるよう家族と協力している。他科受診は家族に対応を頼んでいるが、家族が行けない時には事業所職員が対応している。受診結果は職員全員で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の介護の中で気づいた情報や気づきは、施設内や訪問診療機関の看護師に連絡して、それぞれの利用者が適切な受診を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや医師や栄養士等と連絡相談して早期の退院が出来るように、健康状態を鑑見て環境整備など受け入れじゅんびをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの研修をしており、看取りを実施している。家族、本人と話し合い、花みず木で出来る事を説明して、かかりつけ医とチームを組んで取り組んでいる。家族が他の施設を希望する時は紹介している。	入居時に事業所で出来ることを説明している。必要時には医師と一緒に話し合いを行う。家族が他の施設を希望するときは紹介をしている。今年は1名様の看取りを行った。ターミナルケアの研修はケアマネジャーが行い、職員の理解も深めている。	

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて応急処置や初期対応の訓練は学んでおり、訪問診療の医師や看護師に指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。地域運営推進会議で地域の方々に協力をお願いしている。非常時の備蓄品の点検も随時している。	年2回の訓練を実施し、年1回は夜間想定で行っている。緊急通報システム・消火器の使い方なども行った。同法人の住宅型有料老人ホームと一緒にこなっている。備蓄として、米・缶詰・ガスコンロ・ペットの排泄用の砂などを用意している。	今後も地域の方々に協力をお願いし、事業所の訓練に参加してもらったり、地域での訓練に事業所から参加されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や思いに沿った声掛けをしている。内部研修にて学んでおり、個人情報の保護やスピーチロックには気を配っている。	個人情報の保護やスピーチロックには気を配っている。危険がある時に、「だめ」などの強い口調で言わないように、名前を呼びかけるようにする。サービス向上・接遇マナーなどの研修を持ち回りで職員が作成しミーティング時に話し合う。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の希望を傾聴して、自分で決める事ができるようにしえんしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者が自分のペースで過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容の声掛けや支援をしており、本人の好みの身だしなみをしてもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族から情報を聴き、嗜好品に合った食事を提供している。メニューを決める時には利用者に参加してもらい、片付けも一緒にしている。	食事は朝・昼・夕とその時の担当者が作る。献立は利用者に参加してもらい決めている。昼食の献立は月曜日(カレー・シチューなど)、火曜日(麺類)、水曜日(炊き込みご飯・どんぶりなど)。夕食は魚と肉を交互に作る。コロナ禍以前は事業所の車で利用者と一緒に買い物に行っていたが、現在は職員が行う。利用者と一緒にみそ汁を作る。おぼん拭き・テーブル拭き・皿拭き・茶碗拭き・おかずの小分けなど出来ることを行ってもらい、食事を楽しむことのできる支援を行っている。	

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態にあった食事を提供しており水分摂取の声掛けもできている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前に口腔ケアをしている。義歯は預かり、洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者に合わせて、夜間のポータブルトイレを設置したり、排泄パターンにあわせてトイレ誘導をしている。毎日の排泄チェックをしている。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄状況を把握し、表情などにより感じ取り、声かけトイレに誘導する。パターンを把握することでパッドの使用が減った。パッドなどの見直しも、日頃から職員間で話し合っている。夜間もトイレに誘導している。歩行が不安定な方は夜間はおむつを使用したり、ポータブルトイレを使用してもらう。トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談して薬の調整をしたり、改善への指示を受けている。飲食物の工夫や運動への働きかけをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前の体調をチェックして本人の希望に合った入浴を提供している。	個浴で午前・午後と回数、時間帯など大まかに決まっているが、本人の希望に沿った入浴を提供している。湯の温度には気を配っている。入浴拒否がある時は、時間を置き声かけを行う。入浴時は健康管理を行うとともに、コミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で居室で休憩をとってもらっている。本人が快適に眠れるように、室温、採光、照明に気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の説明を職員全員が理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍以前は生け花や習字や3B体操などを実施していた。それぞれの能力に合わせた役割をしてもらっている。		

R5.3自己外部評価(GH花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は出来ているが、コロナ禍のため、自由な外出は出来ていない。家族の了解を得て、家族との外出も制限している。	天気の良い時は近隣を散歩し、近隣の会社職員と挨拶を交わす。コロナ禍以前には、事業所の車で利用者と一緒にスーパーマーケットに買い物に行っていた。令和5年3/31には、「ひな祭り・食事会」に店の送迎車でいった。昨年6月には「あじさい苑」・11月には「コスモス鑑賞」に行った。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は保管庫に預かり、本人の希望により使えるようになっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿うように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や飾りを掲示しており、室内に温度や採光に気配りしている。テレビの音量も不快にならないようにしている。	廊下・リビングなどには季節の花や飾りを掲示してある。キッチンからはみんなで決めたメニューの食欲をそそる香りがしている。午後の時間は、それぞれゆっくりとした時間を過ごしている。リビングではたっぷりとしたテーブルで、職員と一緒に、楽しい笑い声が聞こえてくる。室内の採光・温度に気配りがされ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来出来ており、利用者が他のテーブルに移り、ゆっくり会話をすることができる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものや思い入れの品々を持ってきてもらっている。本人にとって落ち着いた生活が出来空間をていきょうしている。	衣服が収納できる押し入れ・エアコン・カーテン・ベッドが備え付けてある。仏壇・使い慣れた家具を持参している。居室には、笑顔の誕生日の写真・家族の写真に囲まれ、心安らいた時間を作っている。居室も明るく、気持ちよく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者がその能力を生かせるように工夫しており、安全でその人らしい生活が送れるようにしている。		